

1. 海事産業の重要性:地方創生、(経済)安全保障の重要な柱の一つ

「経済財政運営と改革の基本方針 2025」(6/13 閣議決定) : (当委員会での論点等も踏まえ、)

「地方創生 2.0 ～令和の日本列島改造～」

...日本の造船業を再生し、海運業や造船業を中核とする海事クラスターを強靱化するため、日米協力を含めた海事サプライチェーンの大幅な強靱化、GX経済移行債の活用等によるゼロエミッション船の導入促進、日本籍船の保有コスト低減を含めた日本船主等の競争力強化、商用自動運航船の実現、内航海運・旅客船による安定輸送、新しい地方経済・生活環境創生交付金を活用した造船人材の確保など海事人材の育成・確保等に取り組む。...

「経済安全保障の強化

...経済安全保障推進法附則に基づき、我が国の戦略的自律性・不可欠性を確保する観点から、...国際的な通信、海底ケーブル、海運等のサービスに不可欠な物資やそれらに付随する不可欠な役務の確保に対応する...

一 外航海運は外貨獲得にも貢献

例えば (極めて粗い試算) :

- ・ 日本船主の外航海運保有船:4000 隻弱 (伊予銀行推計)
- ・ 4000 隻の備船料は数千ドル/日の小型船から数万ドル/日の大型船まで千差万別だが、
- ・ 営業利益を 1 隻平均 3000—5000 ドル/日と仮定すると 40 億—70 億ドル (6000 億—1 兆円) の外貨獲得

(注) 日本船主の外航海運保有船の獲得外貨が海外口座に留まり日本に還流しない場合は、日本の国際収支とは無関係で過大推計となるが、実質論として日本船主に帰属すると見做す。他方、ONE 等が海外船主保有船を備船して挙げた利益は上記試算には含まれないが、これらも含め ONE はここ数年間、平均して数千億円を株主 3 社に配当している。

- ・ 「デジタル赤字」数兆円は相殺不能なるも、家電や通信機器も赤字の中、有力な外貨獲得源の一

2. 海事「クラスター」から海事「エコシステム」へ

日本のみならず世界経済のインフラ、我が国安全保障の重要な柱の一つとして、(金融や半導体並みとは言わないが、)「クラスター」を超えて造船、船用機器、海運企業が有機的に連携し、海事産業が「エコシステム」として永続できるよう集積のメリットを増進すべき。

一 海事研究機関や海外も含めた人材を呼び込み易くし、併せて GX、DX 関連の投資も行い易いような「海事産業特区」を瀬戸内や九州北部の関連地域で設立・指定すること等も検討してはどうか？

- ・ 金融分野では、集積を促す「金融・資産運用特区」が昨年度、東京、大阪、札幌、福岡に設置済み。
(「金融・資産運用特区実現パッケージ」の公表について：<https://www.fsa.go.jp/news/r5/sonota/20240604.html>)

・ 今治市は本年 3 月に「海事都市発展ビジョン」を発表:「しごと・ひと・まち」三位一体での発展を目指す。
(https://www.city.imabari.ehime.jp/kaiji/vision/vision_gaiyou.pdf)

・広島県及び今治市は2015年に別内容の「国家戦略特区」に指定済みなるも、海事産業を地方創生・経済安全保障の重要な柱の一つとして位置付けることと併せて、内容を見直すべきではないか？

3. 海事産業の中の船主業の重要性

海運は volatile な産業ゆえ、リスクテイク無くしては存立不能

ー他国比イコールフットイングの重要性

ー日本船主は財務基盤が脆弱

ー特に、中小船主はリスクテイク能力、人的資源に制約があり、トン数税制や政策融資（環境対応のための設備投資）等を中小船主も使い易くして欲しい。

（cf. 日本銀行も黒田前総裁在任時に「気候変動オペ」を創設

「わが国の気候変動対応に資する投融資」が対象

(2)「わが国の」に関する基準

次のイ、からニ、までのいずれかに該当すると対象先が判断する投融資とする。

イ、わが国の温室効果ガス排出量を削減するものその他の国内を実施場所とするもの

ロ、サプライチェーンを通じてイ、に貢献するもの

ハ、研究・開発向けの投融資であってその成果がイ、に貢献するもの

ニ、海外を実施場所とするもののうち、二国間クレジット制度を通じてわが国の温室効果ガス排出削減目標の達成に貢献するもの

・脱炭素はわが国としても内航船/外航船全てに課された課題/規制で、外航船を排除する理由はない。

（航空機は同じ機材を国内線・国際線両方に運航可能だが、当オペ対象不可??）

[4. 日米関税交渉の中で、造船・海事分野が日米協力の柱の一つとなる場合]

海事クラスター/エコシステムを活用し、財政・税制・金融・規制改革の政策・措置で支援して欲しい。

ー「トランプ関税」は「相互」関税含め、経済学的には??だが（寧ろ、米国事業の"rent"?）、

ー USTR 提案：「毒を以て毒を制す」？

・ Mahan「海上権力史論」(19世紀末) 2.0？

・ (“Star Wars”、“Chip Wars”を経て) 2025年3月“Ship Wars”報告書(CSIS 米国戦略国際研究所)

ー 米議会は“SHIPS”法案を提出(4/30)

(以上)

金融・資産運用特区実現パッケージ（概要）

1. 目的

- ✓ 魅力的なビジネス・生活環境を整備し、**金融・資産運用業を特定地域へ集積**
- ✓ 国内外の投資資金を呼び込みながら、**地域の産業・企業が発展しやすい環境を整備**

2. 対象地域

- ① **北海道・札幌市** : GXに関する資金・人材・情報を集積し、GX金融・資産運用特区を実現
- ② **東京都** : 国際金融センターとしての環境を一層整備し、日本・アジアのサステナブルファイナンスやスタートアップの育成を推進
- ③ **大阪府・大阪市** : 海外投資を呼び込みながら、スタートアップ等によるイノベーションの実現を推進
- ④ **福岡県・福岡市** : アジアのゲートウェイとして金融機能を強化し、福岡・九州のスタートアップ等を育成

3. 主な取組み

国内外の 金融・資産運用業者の集積	<ul style="list-style-type: none">○ 資産運用業におけるミドル・バックオフィス業務の外部委託の促進● 行政手続の英語対応 ① 資産運用業の登録手続等 ② 開業手続き（商業登記/社会保険/入管関連）● スタートアップへ投資する外国人投資家向けに留資格の創設● 外国人銀行口座の開設支援	○ 全国措置 ● 地域限定措置
金融・資産運用業者等による 地域の成長産業の育成支援	<ul style="list-style-type: none">● 銀行によるGX関連事業に対する出資規制の緩和○ 銀行グループの投資専門子会社によるスタートアップ出資規制の緩和● プロ向けのベンチャー・ファンドへ出資可能な投資家に関する規制の緩和	
成長産業(GX・スタートアップ) 自体の振興・育成	<ul style="list-style-type: none">○ 水素の社会実装に向けた圧縮水素の貯蔵上限の緩和○ 高度人材ポイント制度を活用した海外人材（GXやフィンテック等）の受け入れ促進	

国の取組み

取組 地域の 取組み

- **自治体における英語対応**の拡充（英語によるワンストップ窓口の整備・拡充、自治体の行政手続きの英語対応）
- 国内外の金融・資産運用業者等に対する**税財政面での支援**（地方税の減免、創業・拠点設立に係る補助金等）

今治発展の歴史も踏まえ、産業・個人・社会の観点から、旧ビジョン策定当時の状況を起点として、今後20年間に想定される変化も織り込み、未来のありたい姿を導出しました

今治市の過去・現在・未来の姿

今治市のポジション

	産業（しごと）	個人（ひと）	社会（まち）
過去 （20年前）	国内1海事都市（市町村合併で「海事都市・今治」が誕生）		
	<ul style="list-style-type: none"> 既存船建造・保有・運航の国内主要拠点 市町村合併に伴い、海事バリューチェーンが網羅された 船主・海運・造船・船用を中心とした安定産業 	<ul style="list-style-type: none"> 海事産業の魅力が不十分/伝わらず、働き手が来にくい 技能者育成の組織や仕組みが誕生 海外人財は少数 	<ul style="list-style-type: none"> 市民における海の魅力認知は希薄 市町村合併に伴い、海事都市今治が誕生
現在 （強み・弱み）	国内トップ海事都市（国内建造船2割を市内造船所が建造。国際的認知度も獲得）		
	<ul style="list-style-type: none"> 既存船建造・保有・運航の国内トップ拠点 海事バリューチェーンが確立されている点が強みであり、協調の機運も高まり 船主・海運・造船・船用を中心とした安定産業 	<ul style="list-style-type: none"> 海事産業の魅力が不十分/伝わらず、働き手が来にくい 男性/若手対象の技能者育成が中心 海外人財を海事産業における一時的な労働力として活用 	<ul style="list-style-type: none"> 市民における海の魅力認知、海事都市としての誇りは希薄 国内トップクラスの海事都市として認知
未来 （ありたい姿）	しごと・ひと・まちが躍動する国際海事都市“IMABARI”		
	国際的で多様性に富む海事産業 <ul style="list-style-type: none"> 建造・所有・運航が相互連携・深化したグローバル海事拠点 次世代技術対応のためのバリューチェーン上の協調領域を拡大 新プレイヤーが参加し、活気に溢れ、稼げる産業への転換 	多彩な人財が集い・育ち・働く <ul style="list-style-type: none"> 海事産業の魅力が向上/伝わり、働き手が増加 次世代船に対応できる高度技術者・技能者の育成&獲得 海外人財を、コミュニティの一員として受け入れ 	多文化が共生する魅力ある地域 <ul style="list-style-type: none"> 海/海事都市の魅力向上で、市民が誇りを感じ、まち全体で魅力発信 国際海事都市としてのプレゼンスを発揮

5 今治海事都市発展ビジョン概要

将来像として「しごと・ひと・まちが躍動する国際海事都市“IMABARI”」を掲げ、実現のためにしごと・ひと・まちという3つの基本方針とし、8つの取組の方向性を示します

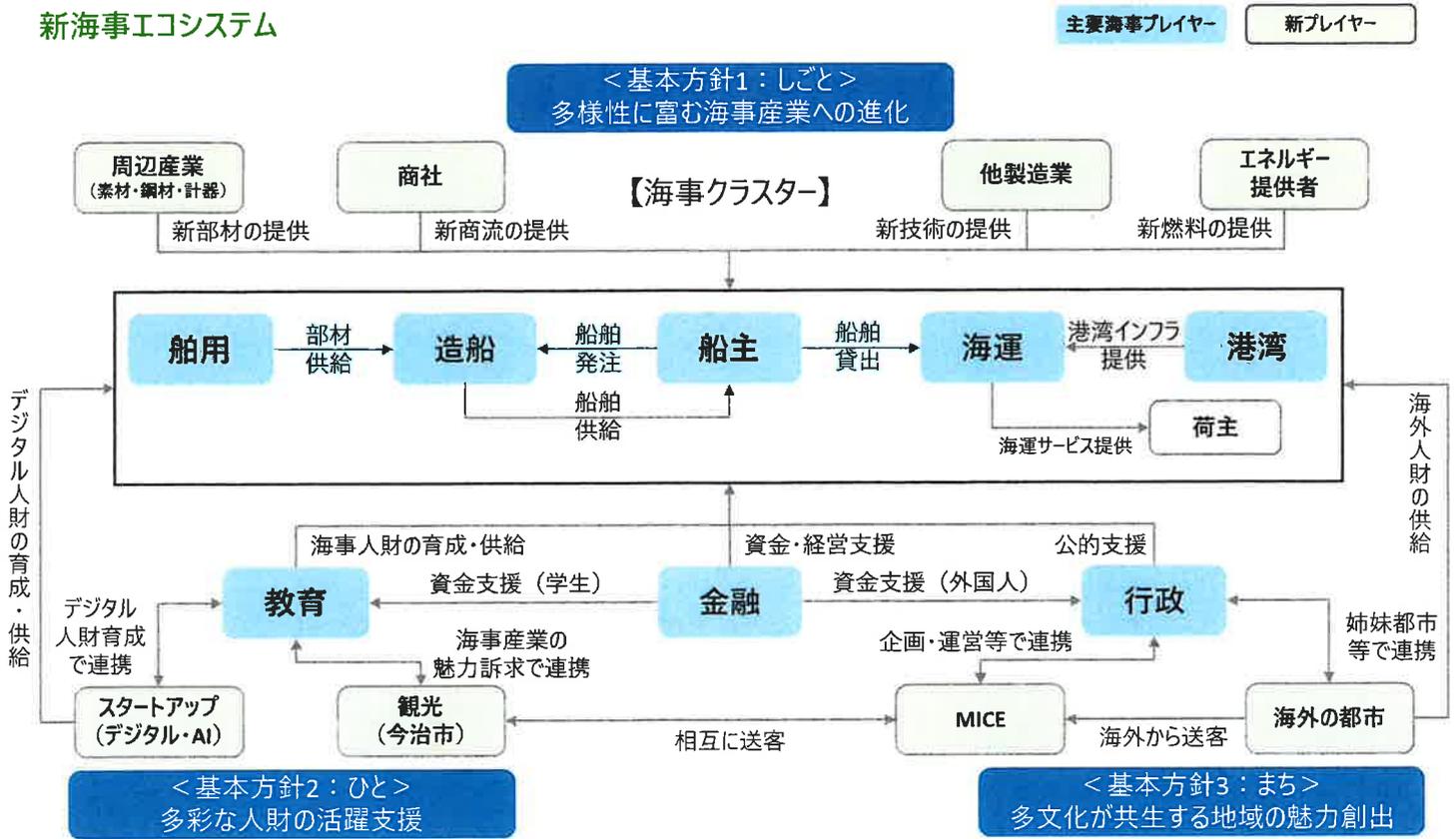
しごと・ひと・まちが躍動する国際海事都市“IMABARI”



6 今治海事都市発展ビジョン概要

主要海事プレイヤーで構成される海事クラスターをベースとしつつ、他産業・スタートアップ・海外プレイヤーなどで新海事エコシステムを形成し、3つの基本方針に取り組みます

新海事エコシステム



10 今治海事都市発展ビジョン

海事産業の魅力向上、街と海事の共生の段階的なステップアップを経て、海事産業と地域や市民生活が密着した“瀬戸内の世界都市”への進化を目指す

取り組みロードマップ

